

平成27年度 第4回 白井市総合計画審議会
<議事概要>

日 時：平成28年3月17日（木） 午前10時～11時40分

場 所：白井市役所 3階会議室2

出席者：【委員】

市川温子委員、平川正之委員、山岸秀之委員、山崎康夫委員、高尾公矢委員
関谷 昇委員、辻川 毅委員、遠藤 薫委員、助友裕子委員、竹内正一委員
松本千代子委員、林 榮造委員、亀川 香委員 13名

【事務局】

折山企画政策課長、相馬主査補、富田主査補

【計画策定支援事業者】(株)地域計画建築研究所 田中研究主任

傍聴者：7名

1. 開 会

[事務局]

- ・平成27年度第4回総合計画審議会を開催いたします。

2. 会長あいさつ

[会長]

- ・お忙しいところご出席をいただきまして、ありがとうございます。
- ・第5次総合計画につきましては、12月の議会において、前期基本計画が、一部修正はありましたが、議会にて議決がされ、本日計画書として配付されるに至りました。会長としまして皆様のこれまでの審議と、ご理解ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。
- ・本日の会議の主な内容は、議決されました基本構想・前期基本計画の計画書の報告と、前期実施計画書を執行部で策定していますのでその報告ということになります。これら報告の後、今後の計画の推進について、委員の皆様方からご意見をいただき、意見交換していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◆事務局より報告事項

- ・委員1名より、2月24日付にて委員の辞職の届け出がされております。市外に転出されたということで、市民委員としての要件を満たさなくなったということになり、受理しております。今後審議会につきましては、実質2回の会議で次期の改選になってしまうこと、附属機関条例でも委員は15名以内としていることから、14名で審議会は開催させていただきますので、ご了承くださいようお願いいたします。

3. 議 題

◎審議会議事進行

白井市附属機関条例第6条第1項により高尾会長が議長を務め議事進行。

- ・議題に入る前に、第3回の議事録について、事務局からお手元に配付されていると思いますが、了承ということで、よろしいでしょうか。（異議なし。）

(1) 第5次総合計画書（基本構想・前期基本計画）について（報告）

[事務局]

◆配布の計画書について説明。

- ・議決された基本構想及び前期基本計画の本文のほか、その前後に「序論」と「資料編」を設けた。
- ・「序論」は総合計画の策定趣旨や位置づけ、特徴とともに、社会経済情勢と白井市の特性について記載している旨説明。
- ・「資料編」については、分野別個別計画の体系、計画策定に係る基礎資料としての財政推計、策定の経過、本審議会の組織や諮問・答申の内容について、計画策定組織体制図等を記載した旨説明。
- ・「前期基本計画」については、議会にて、「戦略3 拠点創造プロジェクト」の戦略3-3、「拠点がつながるまちづくり」、(3)「利便性の良い交通ネットワークの確保」の「拠点間を移動しやすいよう循環バス・鉄道など交通ネットワークの利便性の向上を進めます」を「拠点間を移動しやすいよう、北総線運賃対策をはじめ、循環バス・鉄道など交通ネットワークの利便性の向上を進めます」というように、「北総線運賃対策をはじめ、」を加え、一部修正にて、計画書が完成している旨、改めて報告。

(2) 第5次総合計画・前期実施計画書について（報告）

[事務局]

◆配布の前期実施計画書及び別添資料「第5次総合計画前期実施計画事業について」により、主な特徴と主な事業等について説明。

- ・前期実施計画書の構成は、第1部が総論、第2部にまちづくりの重点戦略に係る事業、第3部で分野別事業の3部構成。
- ・実施計画の事業は、前期基本計画に掲げた3つのまちづくりの重点戦略についての具体的な事業、と、個別分野計画の主要な事業の2つとなる。なお、これらの事業につきましては、市の予算書の事業名と一致するようにしている。
- ・計画期間は、前期基本計画と同様、平成28年度から平成32年度の5ヵ年としていますが、各事業については、今後執行していく中で毎年度事業評価を行って必要に応じ見直しをしていくこととしている。
- ・実施計画事業は、市の事務事業から、「まちづくりの重点戦略の取り組み目標への貢献度が高い事業」、「個別計画各分野の主要な事業」、「市民ニーズの高い事業」、「実施により市のアピールになる事業」、「その他実施計画に位置付けることが適当な事業」ということで、基準を設け選定した。経常的に実施されている事業及び毎年度の予算編成の中で考慮すべき事業は対象外としている。
- ・第5次総合計画の前期実施計画の事業数は148事業。内訳は「まちづくりの重点戦略事業」が54事業、「分野別事業」が94事業。うち、重点戦略等を掲げた関係もあり、新規事業が38事業となっている。
- ・実施計画の進行管理をするため、事業活動を行ったことにより、意図した成果が出ているかなどの分析を行うとともに、まちづくりの進め方の3つの視点に関係する、情報発信・共有、効率的効果的な実施ができているか、市民との協働する際の役割分担が明確になっているのかなども事務事業評価の中に取り入れて評価をしていく。
- ・まちづくりの重点戦略事業については、庁内横断的に推進し、分野を越えた連携等により、より高い効果を目指す。
- ・その他、まちづくりの重点戦略事業の主な事業と分野別事業の主な事業の内容を説明。
- ・別添資料「第5次総合計画の財政推計に含まれる予定建設事業の事業費と財源内訳」については、委員より要望があり、資料とした。記載内容に沿って説明。

《意見・質疑等》

[委員]

- ・大変立派な冊子ができ上がりました、ありがとうございます。この基本構想及び前期基本計画書の 30 ページの体系図と前期実施計画書の 5 ページの分野別個別計画の体系図がどのようにリンクしているのだろうか、という疑問を描きながら、事務局の説明を聞いていたのですが、実施計画書にそれがわかるような記載（12 ページから 21 ページの分野別事業の体系）がありました。なるほどという思いで聞かせていただきました。
- ・前期基本計画書の 44 ページの重点戦略と各分野の関係図において、3つの戦略と各分野との関係性が載っていて、特に関連が強い取り組みは緑丸、連携することで高い効果が得られるものには白丸となっています。今、ご説明いただいた重点戦略事業も分野ごとに位置付けられている理解でよろしいですか。

[事務局]

- ・実施計画書の 13 ページをご覧ください。分野別事業の体系の「健康・福祉」の分野には、個別計画からくる分野別の事業のほか、重点戦略の事業を分野別にした場合、どの分野に位置づけられるかわかるように、星印でその重点戦略事業を再掲しています。基本的に、前期基本計画書の 44 ページにおいて緑丸で示しているところには、重点戦略事業が実施計画事業として実施計画書に掲載しています。

[委員]

- ・各分野どういったものが重点戦略で、どういったものが分野の事業として位置付いているか、についての理解を促す点では、この図で良いと思います。もう一つ加えるとすると、それぞれの戦略 1、2、3 に重点事業ではないけれども、それ以外の事業がどこの戦略に位置付いているのか関係性がわかることも重要だと思います。市全体、庁内全体としてこの総合計画を盛り上げるために、そういったところの理解も、今後ぜひ、進めていただきたいと思います。

[委員]

- ・大変よくまとまった、総合計画、実施計画と思っております。今後は、いろいろな問題点がスピードアップしてでてくるかもしれませんし、何が起こるかわかりませんので、そのときに柔軟に対応できる幅を備えていければいいのではと考えます。特にまちづくりの分野に関して言うと、お金かけてこれから立派な施設をどんどんつくっていく時代ではなくて、つくってきたものをどう使いこなす、あるいは場合によっては、ある部分を集約又は廃止していく時代になってきております。そういう応用動作が途中で効くようになっていくかどうか。「やります」っていったときに、書き込み過ぎていないかどうか、「誰がやるか」といったときに、いろんな人の力を結集できるかどうか。そういう見方をしておりましたところ、幸い、特に地域の方や民間の企業の活力を活かすという精神が入っているようですので、大体のことがいろいろできるのかなというふうに見させてもらいました。後はそのような力をどう活かして使っていくか。財政が厳しい中で、この計画で書き込めてない部分を含めて、幾つかピックアップされて徹底的に民間の企業に聞いてみたらいいのではと思います。そういうことも含めて幾つか、今後方向を検討するという項目もここにありますので、ぜひ、そこのところ柔軟に対応されるたらよろしいのかなというのが私の意見です。

[委員]

- ・いろいろ聞いていてすごく、それこそわくわくするというか、楽しみな心になれる計画だなというふうに思いました。先ほど説明にあったパイロット事業（ときめきマルシェ）のように、いろんな分野で進んでいくと、無駄なく効率的にスピードアップしていろんな事業できるのではないかという期待がすごくあります。今まで縦割りの行政だったものが、横のつながりができて、しかも、それを市民と一緒にとか企業と一緒にという形がとれるのであれば、とても期待できるやり方だなというふうに感じました。

[委員]

- ・私はなぜこの千葉ニュータウンの白井市に住んだかという、東京、千葉との勤務に割と近くて、鉄道が予定されると。そして、緑が比較的多くて、住むには割安感があったということがメインの理由です。そういうところから見ますと、住民意識調査でもはっきりしている北総線の運賃問題がまだまだ正面に座っていないというのが最大の問題だと思っております。ここから抜け出すことはできないのです。

東京オリンピックを中心に都心再開発が非常に活発であり、人口動態でも、都心回帰が広まっているとはっきりしています。そういう面では、東京の中心から遠い距離にある都市、それぞれの都市いろいろありますけども、同じことやっていたのでは白井市は沈んでしまう。ここははっきりしていると思うのです。そういう意味では、近隣の市長さんもこの運賃問題は取り組むと明言されておりますので、いよいよ白井市の姿勢が問われるということかと思っております。

そういう意味では、いよいよ北総線の運賃問題に正面から取り組むというのを市民にもわかるように話題を組まないと、白井市の将来はないということを私は断言できるというふうに思っております。

- ・財政推計を説明していただいたときに、例えば来年度は2億ぐらい捻出をして財政調整基金からの拠出ということだったのですが、先日の広報見ますと、それ以上のものが出るようになっていくところですね。そういう意味では、この紙面づくりも財政の基金の話は出てきてないです。やはりかなりの市民の協力を得ながら、その財政の問題をどうしていくか、懐具合をどうするのかということ、やはり市民に意見を聞いて、厳しい財政状況に対して取り組んでいかなければならないというように考えます。

[委員]

- ・基本的に施策としてまとまってきたと思っております。これからの具体的に実施していく上での問題点になるのでしょうか、それぞれのプロジェクトの具体的なこの計画を実施していく上で、平成28年度、29年度の具体的な数値などを比較して（進行管理して）いく形になると思うのですが、新年度だけではなく、これまでの平成26年度、27年度に比べて、平成28年度は、どのぐらい若い人たちが定住するようになったか、あるいはみどりの活用のプロジェクトでこういうふうが増えてきたとか、拠点の創造プロジェクトの部分でも、こういうふうに変わってきたというような部分が見えるように、ぜひしていただきたいなと思っております。

今、青写真を掲げるのですけれども、それと同時に厳しい財政の状況で、今までの赤字の部分は今後改善していくという部分を両立していかなければいけないのだと思います。ぜひ、そこを踏まえたものとして取り組んでいかなければならないと思います。

[委員]

- ・内容といたしまして、非常に立派なものがまとまったということで感激しております。その中におきまして、先ほど他の委員からもありましたが、やはり今後は、いろいろ背景が変わってきますので、柔軟的な対応ができるような、考え方もこれに取り入れていく必要があるのかなと思います。もう一つは、市民の方々にこういう立派な計画をいかに理解していただけるか、いかに実施していただくかということが一番大きなことだなと思います。その中で、私は環境関係をやっていますので、エネルギー関係のことがやはり気になります。パリ協定などもあり、今後大きな変化、エネルギーの考え方が変わってくると思いますし、エネルギー戦略のイノベーション戦略がもうじきございしますので、白井市の中もいろいろ変わると思います。重点戦略事業が広報紙でも発表されましたけれども、例えば、環境から見ますと非常に予算が平成28年度は少ないということもございまして、こういうようなことをいかにやっていくかというための体制づくりを、やはり市として、立派にやっていってほしいなという感覚を受けます。全体的に、これは皆さんの協力のもとに進めていきたいということの意見でございます。

[委員]

- ・まず、全体として言いますと、この計画づくりの経緯の中で色々な市民の方々からの声を聴きながら情報を集めて、それをこの計画づくりの中に反映させていこうとしたという経緯については、これまで以上、これまでのあり方に比べても非常に大きな前進をすることができたのではないかと

と思います。特に基本構想、基本計画の大きな特徴として計画書の20ページ以降ですけども、「まちづくりの基本的な視点」、それから「まちづくりの重点戦略」ということを明確にできたということも大きな1つの前進だったのかなと思います。戦略の「若い世代定住」、「みどり活用」、「拠点創造」のいずれも今後のまちづくりの基盤になるものですから、そこに焦点を合わせた重点戦略を立てて、それを各事業と分野を関連させながら立てたということも大きな特徴となっていて、非常に評価ができるところかと思えます。

まちづくりの進め方という部分で「情報・共有」、「持続可能な行財政運営」、「参加・協働」ということが挙がっていて、いずれにしても、この計画の中の進め方の位置付けは、基本的には連携、横串でいくということ。この3つの方針については、どの重点施策、分野別の事業にも横串でいくということが、うたわれたっていうのも、やはり大きな前進かと思えます。これを今後どういうふうに応用していくかにはなりますけれども、位置付けとしては十分だろうというふうに感じております。

さらには、それぞれの戦略の中で取り組み目標、それから目標実現に向けた取り組み、期待される効果ということで、それぞれの戦略プロジェクトがどういう方向に向かって、どういう効果を目指していくのかということも骨格としては明確にできたということ。これもそれぞれの分野との関連で位置付けられてはいますので、これでも大きく前進することができたところなのかなというふうには思います。

- それを踏まえた上で、今後の課題ということを同時に申し上げておきたいと思えます。大きな課題、宿題を残したんのではないかというふうに率直に思えます。幾つかその宿題といえますか、今後のこの計画の運用の中でやはり重視していただきたいと思うことが幾つかあります。まず1つは、財政問題です。これについては、今回の計画は「こういう財政の考え方で行く」ということを踏まえた計画にし切れなかったというところがあります。これは行政経営改革ということで、私もそちらの委員として加わっておりますけれども、今後、白井市の行財政の運営のあり方を根本的に捉え直していくという方針のもとに今少しずつ動きが進んでいるところですので、その中でどういうふうに応用するかのあり方を方針として固めていくのか。それができ上がってきて、それを踏まえた上でこの計画というものをどう進めていくのか。今回はこの計画づくりの中には、その接合がちょっと間に合わなかったところがあったということで、過去には説明を受けていますけれども、今後の1つの課題になってくると思えます。

この場でも議論されましたように、どんどん税収的にも厳しくなっていく。あるいは、お金をかけなければいけないところにはどんどんかけていかざるを得ないという中で、単に事業を縮小するかカットしていけばいいという話ではないはずなのです。ですから、どういうふうに応用していくのか。これは財政という問題だけではなくて、ちょっと専門用語ですけども、財務というのですね。財務というのは、入ってきたお金はどう税収を増やしていくのかという、そういう視点が一方ではありますけれども、他方では、ある資源庫の中でそれをどういうふうに応用するにつれて成果につながる形でそれを使っていくのかということも、財務政策というふうに言います。その辺を今後あわせて考えていく必要があると思えます。いずれにしても財政、財務の問題と、この計画をどう結びつけていくのかということが大きな課題になってくると思います。少なくともこの前期5カ年の中ではその辺をある程度検討しながら、さらには後期計画を考えていくときにはかなり本格的に、これを通していかないと、その先の行く末というのはかなり厳しいことが予想されることは申し上げておきます。

- それから2つ目の課題ですけども、実施計画の3ページのところに「計画推進にあたって」ということで、庁内横断的な推進体制とあわせて進行管理がうたわれています。これは以前この会議の場で私、発言いたしましたけれども、要するに各施策、事業の評価なのです。どういうふうに応用する、その事業とか計画というものを評価していくのか、その評価の基準であったり、あるいはそれをどういうふうに応用するに是正していくのか。さらには、それをどう動きにつなげていくのか、まさに進捗管理そのものになるわけです。

この部分が今の計画の中では必ずしもクリアになっていない。つまり、進捗管理をしていくといっても、基本的には行政評価の中で、各担当課が自分のところはこういう事業があつてこういう

事業をやる。毎年評価をしていくわけですが、どういう基準で評価していくのかという、その基準そのものが大きく変わってきているところがあります。ですから、その辺に熱心な自治体は、その評価指標そのものを根本的に作り直して、それぞれの事業を、どういう観点から評価すれば、その市民生活に資することになっていくのか。このようなことをしっかりあぶり出せるような、評価指標というものをつくっていくことが、これから問われていくと思います。従来どおりの評価の仕方では、このプランというのは十分に生きないのかなというふうに思いますので、評価づくりということをぜひ、これからの5年間の中で少し進めていく必要があると思います。それとともにこの進捗管理を考えていただければと思います。

- 3つ目は、ちょっと大きな話にはなりますけれども、先ほども第4次の総合計画と第5次とでは、事業数が減ったりとか、いろいろと統廃合したりといった説明もあって、それはそれで前進して、それぞれが努力を果たされようとしているというふうには思いますけれども、これから数十年というスパンで考えていったときには、多分このやり方でも限界が出てくると思います。つまり、事業数を減らすとか統廃合するというのはまだまだ行政目線なのです。行政目線の中でこれから財政状況も非常に厳しくなってくる。だから、各課も事業をとにかく減らせというふうな働きかけをしたり、いろんな調整を図ったりっていうことで、行政が持っている部分というのをどんどん小さくしていくことをされている。これが従来の行財政改革ということで、ずっと進められてきたところかと思いますが、多分このやり方だけでは今後はもたなくなる。ただ、今の状況の中で恐らく見えてきているのは、どの担当課もこれ以上事業を減らすことはできないということだと思います。

そういうふうに考えていくと、今のままですと、多分身動きがとれなくなるでしょうから、そこをどう考えていくのか。これらからのステージの中では少し考える必要があるのかなと思います。そのためには、行政目線っていうことをやはり外していくっていうことが根本的な部分で問われてくるというふうに思います。

- では、その根本というのは何だろうかというのは、多分いろいろ考え方あるかもしれませんが、私がこれから訴えかけていきたいと思っていますのは、市民自治という考え方です。市民自治という考え方はどういう考え方かといいますと、出発点は行政ではないということです。出発点は市民であって、市民はもちろん自分たちでやることをいろいろ考えて、それからちょっと難しい言葉ですけども、信託という形で、一方では行政にいろんなことを委ねていく。あるいは政治のほうにも委ねていくというふうな形で、自分でやること、それから税金を使って、代表者を通じてやってもらうこと、いろんな回路があるわけですけども、そのあり方を根本的に見直していくということが、これから問われてくるわけです。わかりやすく申し上げれば、市民は何を自分たちでやるのか、何を行政とか政治に委ねるのかということ、もう一回捉え直していくという、ある意味では原点に立ち返るといのが市民自治の考え方です。

その中で問われますのは、行政のあり方云々ということが先に来るのではなくて、まず市民が自分たちでできることをしっかり考えるというのがまず先に問われるという考え方です。今、既にいろいろな地域の担い手の方々を通じて行われていることがたくさんありますけれども、多分それだけではもたない。それどころか、今の地域の受けるいろいろな活動も例えば高齢化したり、様々な形で非常に厳しい状況になってくるのが想定される。だけれども、そういう状況の中で市民として自分たち何ができるのか。よく言われるところの自助とか共助の部分です。これをどういうふうにこれから膨らませていけるかということ、市民自身が考えていくことが、まず問われてきます。

それを踏まえた上で、市民でできないことも、当然のことながらたくさんある。これを政治とか行政に委ねていく。行政という問題に限って言えば、私はこれからの行政は、そういう市民が自分たちでできないことを補完していくっていう「補完行政」というものが、これからの中心になってくることなのかなというふうに考えています。行政が何をやるかというのは、市民にできないことをやる。補完するという、そういう視点から行政のあり方というのを、体制の面でも計画の中身の面でも根本的に見直していくことをしないと、恐らくこれからはもたなくなる、そういうふうに思います。

- ・そういう順序で考えて、行政として何をすべきなのか。しかもさらに、これからどんどん財政状況が厳しくなってくる中で、恐らく行政にやれることっていうのはミニマムだと思います。市民生活において必要最低限度のことを保障するというのが行政の役割の多分中心になってくると考えます。あと、余力のあるところは、最低限度の部分プラスアルファでいろいろな仕掛けをしていくことはできると思いますけど、それは多分、自治体によってかわってくる。白井市がこれからどういうふうにそのプラスアルファの部分を確認していけるのかということも大きく問われるところだと思います。いずれにしても、ミニマムとプラスアルファというふうな形になっていかざるを得ない。そうすると、ミニマムの部分はとにかく何がどう変わろうとも、行政はしっかりやっていくのだという姿勢がまず1つ大事になってきます。では、ミニマム以上の部分は誰がどうしていくのか、この辺がさらに問われてくる。「協働」という形で、それは市民がやっていくべきなのか、それとも行政がやるべきなのか、両者が連携してやるべきなのか。この辺はあらかじめ決められることではありませんので、それぞれの状況の中で具体的にその形、内容というものを考えていかざるを得ない。多分、そういうふうにこれからなってくるだろうと思います。

そういう意味で先ほど行政目線と申し上げたのは、例えば市民参加の部分でも、まだまだ行政にはできなくなってきたことがいろいろあるから、市民の皆さんと一緒にやりましょうっていう、こういう感じなのです。これからはそれではだめなのです。そうではなく、市民はまず何ができるのか、それを行政がどう補完していくのか、というふうな形で考えていく。その中で誰が何をすべきなのかということと、それをさらに具体的に考えていく。それが市民自治ということの基本的な考え方です。こういうことも少し念頭に置きながらこの計画を進めていく必要があるのかなと思います。
- ・今回、だいぶ市民が頑張れる、あるいは連携、協働して頑張っていこうという部分がうたわれているので、それをこれからどういうふうに膨らませていくのかということが、大きく問われます。いずれにしても、まだまだ自助とか共助でやる部分、公助でやる部分、この辺を根本的に捉え直していくっていう部分がまだ意識として気になる部分があるかと思います。これは本当に各方面が、そういう意識をしっかりと持ちながら、それぞれできることをしっかりと考えていくというふうにしていかないと、多分、お金は幾らあっても足りないっていうことになっていってしまうと思いますので、そういう意味で市民もそういう自覚がこれからますます問われてくるというふうに思います。そういうふうな視点で、これからこの計画を運用していただきたいと思いますというふうに思います。

[委員]

- ・この計画はたくさんの方々の声が反映されていて、本当にわくわくしながら読ませていただきました。やはり、パイロット事業のマルシェやホワイトフェスティバルなどにも行ったのですけれども、たくさん若い世代がいっぱいいて、とても盛り上がっているように思えたんですね。私の出身の船橋市のほうでは、結構まちのほうで、そういうイベント的なことは、小さいころから行っていたので、とてもそれを思い出して、白井でも今後多くなればいいなっていうのをとても感じました。それは1つなのですが、財政が厳しい中で今後このように進めていくっていうのは、本当に先ほどおっしゃったとおりとても難しいことだと思うのですけれども、市民の方にそれをどのように協力というか、お願いしていただくところを考えていただきたいと思います。私も市民目線で自分ができることはやらせていただいているのですけれども、今後そういう方を少しでも、増やしていただくような活動をお願いしたいと思います。

[委員]

- ・私としては戦略2の「みどりの活用プロジェクト」の中に多様な形態の農業経営とありますが、具体的に何をどのようにするのか、そういう点ですね。白井市のこれからの農業をどう進めていくか。つまり、皆さんもご存じのとおり、白井市というのは梨が主なのですよ。何を言いたいかっていうと、梨屋さん場合は後継者がいて、若い人が結構働いています。他の農業については、皆さんもご存じのとおり、後継者がいないとは言いませんけども、離れていってしまっていて、荒地もだんだんこれから増えていきます。そういう点をこれからどうやって、後継者を育てていくのか、それがやっぱり大事なことかなと思います。

あとは、農産物、梨もそうですけれども、白井市のPR。白井市は東京も近いし、いい梨があるということを知ってもらいたい。失礼ですけども、電車に乗っても白井市はどこにあるのか、わからない人がほとんどなのですよ。白井市をPRすることをもっとやってほしいと思います。

[委員]

- ・実施計画書の分野別事業においては、障がい者福祉や高齢者福祉、子育てというように小分野があります。私は障がい者計画の策定委員も携わっており、この計画の中に記載されているような提案事項を結構したので、それが盛り込んであるので、良かったなと思っています。それと介護支援ボランティア事業は市から社会福祉協議会が委託されて実施している事業の1つなのですが、その辺をこれからもっと充実して欲しいと考えています。それから子育て支援事業の講座などは、視覚とか聴覚の障がいのある方たちに対しての充実がされてきています。通訳なり、ガイドなりいろいろ行っていますので、このあたりも重点目標の中に、入れてほしいなと思っています。

総合計画と障がい者計画の内容がとてもよく整合性を持たせてあり、これから戦略として、このまま進んでいければ、本当に障がいの人、弱者の方たちも安心してお散歩できる市になると思います。私は現場でかかわっているので、その辺がすごく思いました。また、これに沿って進んでほしいという気持ちです。

[委員]

- ・白井市は東京から30キロ、成田からも30キロということで、立地条件が良過ぎるので、例えば農業は基幹産業だといっても、つくってちょっと行けば売れるわけですね。例えば宮崎県だとか鳥取県だとか、あるいは高知県とかでつくったものだと、物流コストがすごいですよね。それで、築地へ運んできているわけです。そういった意味で、非常に条件が良過ぎて、みんなボーッとしていますよ。役所なども全員そうです、ボーッとしているわけです。

最初のところで、取っかかりでつなげてないですよ。さっき自助とか言っていたけれども、そういった与えることをやっているから、例えば市民大学校とか、今度やろうとしている農業大学校、こういう与えるものを与えるからだめなのです。与えられると思ってしまう。私は絶対それは反対したいのだけど、そういう基本のところ、行政目線で考えている。例えば60歳以上の人は、完璧に40年ぐらいは仕事をしてきて、もういっぱい世間一般で渡り合ってきたわけですよ。だから、そういう人たちが何でリタイアしたからといって、市民大学校で学ばなきゃいけないのか。おかしいと思うのです。そういった基本のところは今なお、白井市にはないと思う。私は今、自治会やっていますけど、自治会だって一緒ですよ。「自治会のことはわからない」と皆いうけれど、わからないからやるのでしょと。私もゼロからですよ。

- ・例えば、工業団地を1つの産業として、子どもたちが就職するという部分をやるのであれば、その工業団地自体のアクセス道路が全くないわけですよ。何年も前からお互いにキャッチボールばかりして、とどのつまりは50年間何にもしないというところできたわけですよ。

農業も一緒です。今大学からの意見を聞けば、もっと農業と工業のくっつけ方もあるだろうし。例えば、工業団地で発生した熱源をどうやって農業の中へ取り込むかということだって、ものすごく重要なことです。工業団地では金属加工して残った熱を捨てているわけですよ。最初それを3年前に聞いたので、それから工業団地といろいろ話し合いながら、役所はどうなっているのかなと思っています。道路は全く整備されてない。これは大変だということでやっとアクセス道路を整備する方向に今は動いてきましてけども。

- ・そういう一つ一つの原点を考えていないというところがあるのではないかと。それをみんなが自覚してやらないと、どうしようもないと思います。工業団地で働いている人の中に白井市民が何割いるのかと。7,000人の中の2,000人ぐらいしかいないわけですよ。では、その2,000人が4,000人になる、5,000人になるというようなことも考えないといけないわけです。若い人、子育てしている人など、どういう形で取り込んでいくか。産業がないとできないから、それをどうやろうかという問題です。農業でも後継者がいなくなっている。親のやっていることを見ると、息子はやりたくないというふうに思った現状はそこにあるのではないかと思います。それをどうやって変えていってやるかということが大事なポイントだと思います。それに農政課がこういう形で

事業化しているのはおかしいのではないかと思います。また、同じようになるでしょう。

だから、もっとみんなで真剣になっていかないといけない。福祉面はいろいろな目線があるから、だんだんそうってきているけども、現実はそのような部署が多いのではないかと私は思っています。これはちょっとだけ一部を除いて、ほとんどいいと思いますけど。

[委員]

- ・実施計画の中でちょっと、はてなマークがついてしまう事業がいくつかあり、具体的には「ゆとりある住環境整備事業」などは、調査に3年もかけて実行が5年目になってしまうのは、ちょっとスピード的に遅いのかなと思います。あと、「地域人材活用事業」では、各小中学校の判断でということが記載されているので、これは多分、その学校に赴任された校長先生とか教頭先生の判断によって、小学校・中学校の対応が変わってきてしまうのだなというふうにとれるのです。また、農業の「農産物ブランド化推進事業」では、梨の輸出関係に対しても、実際に梨屋さんのほうからは1個1,000円の梨を海外で買うわけがないという声も出ています。
- ・何が言いたいかという、先ほど他の委員が言われたように、実施計画書の3ページのところにある事業の評価が非常に大事になってくると思います。実施計画がある中でその評価を間違えてしまうといけないと考えます。実施計画の途中の見直しとかも入ってくると思うので、それ自体は市民の声なりその関係者等の生の声とかを入れて、評価のほうを見ていったほうがいいのかと思います。

[会長]

- ・まず全体に、この計画書は非常に市民の意見をよく全体的に聞いてまとめられた計画書になっているというふうに思います。それは非常にプラスの点だというふうに思いますが、逆に言うと、全ての点に配慮したという点で、特徴が一体何なのかということが少し薄いのかなというように感じます。これはやはり、行政のリーダーシップですよね。そこが必要なのだというように思います。

財政難の状況はもうはっきりしているわけで、これからどんどん高齢者が増えて民生費というのはもう絶対にかかってくるものです。もう避けられない。そうすると、どういうふうにバランスをとるのかというのが、行政の1つの判断材料になるということです。介護保険でも今言われているのは、現在の要支援1、2が介護保険から外れるということになると、地域でどういうふうにサービスを提供していけるのかということで、最大の課題になっていくと思います。他の自治体の市長や市町村で話を聞いてみますと、できないということを言う市町村も出てきているわけです。そういうものへの対応がせまられています。

私としましては、どういうふうに行政はリーダーシップをとってその財政とのバランスを調整していくのかと、そこが問われるのだというふうに思います。

もう一つは、他の委員の話もありましたように、協働ですね。行政はできないものはできないと、はっきりと言うべきだと思います。そこで、市民の方々に、地域であるいは市民の協働でやっていくのかということをお願いしてもいいのだというふうに思います。そういうことが、やはり必要なのだというふうに思います。

- ・それからもう一つは、先ほどありましたように、計画を進めていくにあたって、評価指標をすべて検討して、いい評価指標をつくって、事業を評価していくべきなのだというふうに思います。また、市民の評価も重要だというふうに思いますので、どんどん市民に問いかけていくことも大切だと思います。
- ・白井市は市外からの目でみていまして、いい評価が余り聞こえてこない。まだ「しろい」を「しらい」という人も多くいます。やはりイメージづくりといいますか、そういうことも行政のリーダーシップでやっていく必要があるんだというふうに思います。取りとめのない意見ですけども、参考にさせていただければと思います。

[委員]

- ・この前、第5次総合計画について、広報しろいに記事がでましたが、従来どおりのやり方で特出していません。「こういう計画をつくりました、こういうふうに進めていきます、その内容はこうです」というように。従来のやり方の域を脱していないという気がしますね。やはりここでもっと本当に市民に何をやってもらいたいのか、行政はこういうことやりますというインパクトを強めて、市民に訴えかけるような紙面にしていかないと、これから白井が進めていく方向性っていうのは、見えてないというふうに私は思います。

それと、財政推計の中で、思い切って何かを減らすっていうのはできないと思います。いろいろしがらみもありますし、一筋縄ではなかなかできない。その中で考えてもらいたいのは、予定建設事業費、これは箱物ですから、これはもう行政の力で幾らでも検討はできるのです。私の経験からですけれども。全体の中で本当にやるものとやらないものを市民の目線で検討していく。特に額もこれ大きいですから、そのところをよく検討していく必要があるのではないかとということです。それと、これからは、市民力、高齢者力などいろいろな力を発揮していかなければ、財政的にはもたないということで、そのとおりだと思うのですが、一方、私は定年までサラリーマンしていましたけれども、市民が市民活動に出ていけるかっていうと、そういう状況にないんですね。もう企業の仕事に追われて、あしたの仕事を考えるのが精いっぱいなのです。

でも、これからは本当にそういう働く層も市民の力を発揮していかないと、多分もたないのだろうということ。出てきてもらうには何をどういうふうにしていったらいいかっていうことを真剣に我々も考えないといけないし、行政のほうにも考えていってほしいと思います。そういうふうないろんなアイデアを特に若い職員の方には期待したいです。若い人たちにも、そういうアイデアを考えられるような時間的余裕をぜひつくっていただきたいというふうに思います。ちょっと外れますが、ぜひ、市の職員の数を減らさないでほしいのです。本当にいろいろな力を発揮していますし、いろんな時間の余裕をつくったところにアイデアも出るし、いろんな考えも出てくると思います。行財政というところをすぐ人を減らす指標で評価しますけれども、そうではないというふうに私は考えます。

[事務局]

- ・忌憚のない、いろいろな意見をいただきましてありがとうございました。

第5次総合計画がここでまとまったことも含めて、我々もちょっと、ほっとしているところあるのですが、今皆さんのご意見をいただくと、これからのほうが大変だぞというところは重々わかっております。推進にあたっては行政目線ではなく、市民の目線で考えていかなければならないことや市をどういうふう売り出していくのか。今回シティープロモーションについてもメスを入れて、力をいれていくところがございます。

今後、この審議会についても、どうやって評価をしていくかについては、我々や委員の皆さんも含めて、指標の話もございましたので、学習もしていかななくてはいけないのかなと思っています。そこを、皆さんと一緒に議論しながら、どういうふうにこの5年間の経過を見ていくかということにしていきたいと思っておりますので、また皆さんといい知恵を出し合って、この白井市を盛り立てていただけますように、ご協力をお願いしていきたいと思っております。

今年度は4回ではございましたが、いろいろなご意見をいただいたことをとてもうれしく思います。今後とも、小さいことでも結構ですから、またメールなりお手紙いただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。本日はありがとうございました。

(3) その他

◎今後のスケジュールについて

[事務局]

来年度、平成 28 年度につきましては、予定では 2 回の開催予定になっております。

今後の計画の進行管理や戦略事業の進行に当たってのご意見等お伺いしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

日程の調整につきましては、4 月以降に御連絡いたします。

4. 閉 会

[会長]

- ・それでは、おおむねご意見が出尽くしたものと思います。本日の議題は全て終了いたしました。これもちまして、平成 27 年度第 4 回白井市総合計画審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

●会議終了